



む け
無 憂 華

浄土真宗本願寺派正念寺
常陸太田市久米町20-1
発行：正念寺護持会

電話：0294-76-2058
FAX：0294-76-0169

浄土真宗立教開宗慶讃法要のご案内

来年は、浄土真宗が生まれて800年の年に当たります。実は親鸞聖人は、浄土真宗の立教を宣言してはおりません。と言いますのも、聖人はあくまで師の法然聖人の弟子であるという意識で一生を過ごされたので、自ら一宗を開くという気持ちは無かったのです。更に言えば、親鸞聖人が使われた「浄土真宗」という言葉は、宗派を指す言葉ではなく、あくまで「浄土を顕かにする真実の教え」と言うことであり、つまりは「法然聖人から伝えられた教え」と言うことでした。

では何故、今宗派としての浄土真宗があるのでしょうか。それは、親鸞聖人の曾孫にあたる「覚如上人」が、親鸞聖人を立教開宗の祖として立て、そこから孫の「如信上人」、そして自分(覚如)に教えが伝わったという「三代伝持の血脈」を主張した事によります。また「本願寺」という寺号も覚如上人により1321年頃に公称された言われます。

時代は下って、明治9年に教部省に差し出した「宗規綱領」に『宗祖親鸞52歳の年に常陸国稲田に於いて無量寿経によって浄土真宗の名を立て、教行証文類を作る。これを立教開宗の本書とする。実に後堀河天皇元仁元年』とあり、ここに元仁元年が立教開宗の年であると宣言されました。教行証文類の正式名称は、「顕浄土真実教行証文類」と言いますが、この草稿本の完成が元仁元年4月15日です。この日をもって、浄土真宗が生まれたと言うことです。この本は、その後も幾度となく推敲を重ねて手を加えられており、親鸞聖人75歳頃に一応の完成を見たと言われています。

つまり、浄土真宗がこの茨城の地で生まれて、来年が丁度800年になる年と言うことです。この立教開宗の年に併せて、築地本願寺では『親鸞聖人ご誕生850年・立教開宗800年慶讃法要』が、令和6年4月26日(金)から29日までの4日間にお勤めになります。拙寺が所属する「茨城東組」がいつ参拝するかまでは決まっておきませんが、参拝日程が決まりましたら、ご連絡いたしますので沢山の方とともに

にお参りしたいと思えます。

また、同じ来年に茨城でも慶讃法要をお勤めいたします。これは、拙寺の所属する茨城東組と県西の寺院でつくる茨城西組が合同でお勤めをするものです。場所は、今年7月2日より稼働した水戸市民会館の大ホールをお借りして行います。細かい部分についてはこれからですが、現在までに決まっていることをご案内いたします。是非予定に入れておいて頂けるとありがたいです。



- 日時 令和6年6月22日午後1時30分～
 場所 水戸市民会館大ホール
 講師 今井 雅晴師(関東における親鸞聖人の研究第一人者)
 筑波大学名誉教授
 歌手 ふくい舞さん(祖父が北海道の本願寺派寺院前住職)
 2008年レコード大賞新人賞受賞・2011年日本有線大賞受賞

(第4回) ※仏教の教えを開かれたお釈迦様(仏陀)のご生涯を書いていきます。

お釈迦様の生涯 4 初転法輪その2

お釈迦様は、5人の住むヴァーラーナシーの鹿野苑に向かいます。遠くからお釈迦様の姿を見た彼らは、お釈迦様が苦行を捨ててしまったと思っていたので、「向こうからゴータマがやってくる。彼は苦行を捨てて墮落してしまったのだから、立って迎えたり挨拶したりする必要は無い。しかし、ゴータマがここに座りたいと思うなら、言葉をかけてやろうではないか。」と言いあっていました。しかし、お釈迦様が近づいてくると、その姿が余りにも尊く神々しいので、思わず立ち上がってお釈迦様を迎えて、座席をしつらえたり足を洗う水を用意したりしました。

そしてお釈迦様はこう言われました。「私は、最高の悟りを開いたブッダである。私が悟った法を説くから聞きなさい。その通り行えば、この世の最高の悟りを生きた身のままで得られるであろう。」しかし5人は、冷笑を浮かべ「ゴータマよ、あなたはあれほどの難行苦行を行っても悟らなかった。精進努力を捨ててどうして悟ったなどと言うのか。悟ったという証拠を見せてもらいたいものだ。」と言いました。

そこでお釈迦様は説明をします。「私は、墮落を享受したのでも安逸を貪ったのでもなく、精進努力を捨てたのでもない。私は、悟りを開いたブッダである。私の教えに耳を傾けなさい。



私は、不死を得たのである。私の教え通りにす

れば、君たちは出家の目的を遂げることが出来るだろう。生きた身のままで悟りを開くことが出来るであろう。」しかし5人は信用せず、お釈迦様を三回も同じ言葉でなじった。

お釈迦様も同じ言葉を三回繰り返したが、最後に5人に向かって「私がこれほど確信に満ちて君たちに説いたことがあつたらうか。」「ありません。」「私はブッダとなったのだ。これから法を説くからその言葉に耳を傾けなさい。私の言うとおりに実践すれば、生きた身のままで悟りを開くことが出来るであろう。」5人に耳を傾ける様子が見られたので、ブッダは説法を始めました。

修行者たちよ。出家者がこの世で実践してはならない極端なことが二つある。一つは愛欲の生活にふけることだ。愛欲にふける人は快樂を得ているようだが、心の底からの安らぎは得られない。そのような生活を送っていると満足すると言えないから、さらに欲望を追い求め続けて、決して理想の境地に達することはない。もう一つは、身体を苦しめる苦行を一所懸命行うことだ。身体を苦しめると疲労するだけで精神を集中することが出来ず、当たり前のことを考えることすら出来なくなる。そうした状態で、どうして真理を追究できようか。無知の闇は智慧によって開かれるのであって、身体を苦しめることによってではない。私は、この二つの極端を離れ、真実の智慧を得て、真の悟りを開かせる中道を発見し体得したのだ。

続けてお釈迦様は、「中道とは、八正道である。これこそが真実の安らぎである悟りに導く道なのである。この実践方法に従って私は悟りを開いたのだ。私たちは、この世に生まれたが、生まれるということは「四苦八苦」の人生である。この様に、人生は「苦」であるとみるのが苦に関する真理なのだ。これを「苦諦」という。人生における苦の原因と理由になるものを明らかにする真理を「集諦」という。次に、集諦で明らかにした欲望を捨て去った状態、つまり苦の原因を捨て去った状態を示す真理が「滅諦」である。そして、苦を滅する道を説いたのが道諦で有り、八正道こそが実践すべき道である。」と説法をしました。この最初の説法を初転法輪と言い、この教えを聞いた5人は、次々と悟りを開きお釈迦様の弟子となりました。(次号へ続く)

参れ～寺カード10ポイント達成報告



井坂 浩様

安 二郎様



30ポイント達成！

今後ともよろしくお願いたします。



猪口 治三様

40ポイント達成！

本願寺親鸞聖人ご誕生850年・立教開宗850年慶讃法要 参拝報告

5月21日に表記の慶讃法要に参拝してまいりました。今回は、本山から募集された参拝人数も少なかったことから、坊守と2人での参拝になりました。法要の様子は、YouTubeの本願寺チャンネルに投稿されておりますので、是非ご覧になってください。

参拝した日は、親鸞聖人のご誕生日でお生まれから丁度850年目に当たり、大変賑々しくお勤めされました。



感謝録

法要行事等の折に清掃奉仕や
仏具磨きなどのお手伝いを戴い
ており、大変助かっております。紙面を借りて
感謝申し上げます。

永代経法要

清掃奉仕(2月28日午前)

井坂 秀子様
井坂 ヨシエ様
坂内 愛子様
箕川 清様
永山正文様

お磨き奉仕(2月28日午後)

井坂 ヨシエ様
橋本 貢様

歓喜会法要

清掃奉仕(7月25日)

井坂 豊子様
井坂 ヨシエ様
箕川 清様
箕川 礼子様
永山 正文様

法句経の言葉

他人に教えるとおりに、自分でも行なえ。自分
をよくととのえた人こそ、他人をととのえるで
あろう。自己は実に制し難い。



住職雑感

毎日暑い日が続いております。原稿を書いている時点で、昨日(7月26日)に
は40℃近い暑さの地域が全国に広がっております。災害級の暑さ、という言葉
を聞くことも一度や二度では無くなってきました。

そして線状降水帯という言葉も近年よく聞く言葉です。今年になっても「線状降水帯」による被害が、西日本から東日本まで、各地で確認されております。私たちの周りでも、令和元年には大雨による久慈川の氾濫で、花房町から松栄町に到る広大な地区が水没し、正念寺ご門徒の方々にも大変な被害をもたらしました。もう12年前になりますが、東日本大震災もありました。その後も、熊本地震・大阪北部地震・北海道胆振東部地震などが起きています。

たとえ遠い地区で起きている災害でも、決して人ごとではないのです。私たちは、様々な係わりによって毎日を生きています。遠くで起きた災害も、我事として考える事が、大事なことだと改めて考えさせられます。

ホームページのご案内

正念寺ホームページには、今までの寺報
やちょっとした仏教の話、寺の縁起なども
あります。浄土真宗本願寺派正念寺で検索
していただくと表示されます。

スマートフォンなどからは、下記QRコード
を読み込んで下さい。

また、ホームページから
YouTubeの正念寺チャンネルへも行けますので、是非
お楽しみ下さい。



これからの行事予定

8月16日(水) 11時～	久遠廟法要
8月29日(火) 8時～	清掃奉仕
9月23日(土) 11時～	久遠廟法要
10月24日(火) 9時～	清掃奉仕
11月 7日(火) 13時半～	仏具磨き
11月18日(土) 13時半～	報恩講法要
11月19日(日) 13時半～	報恩講法要
11月28日(火) 9時～	清掃奉仕